

小学校 国語

1 教育課程の改善のポイント

- 日常生活に必要な国語の能力を系統的に指導できるよう指導計画を工夫する。
- 実生活に生きて働く言語活動を指導計画に位置づける。
- 子どもが見通しを立てて学習できるよう、学習過程を明確に提示する。
- 伝統的な言語文化に親しむ指導を継続的に行う。
- 読書活動を充実させるため学校図書館を活用した指導を工夫する。
- 日常生活や他教科の学習に役立つよう漢字指導を改善する。

2 全面実施に向けて取組が求められること

(1) 移行期間における指導のポイント

ア 平成22年度は新小学校学習指導要領によることができます。平成23年度の全面実施を考慮し、22年度の指導は来年度を見通した指導計画を作成することが大切です。

- ・現行の学習指導要領による場合は、新学習指導要領では第4学年から第3学年に移動したローマ字を必ず指導しましょう。

(2) 適切な年間指導計画の作成と改善 【資料 1～資料 3】

ア 授業時数の増減に対応する年間指導計画を作成しましょう。作成には次の手順を参考にしてください。

- ①学習指導要領に示された国語科の目標を踏まえ、学校として「身に付けたい国語の能力の重点指導事項」を決め、さらに、各学年の「重点指導事項」を決めて、全学年を通した指導系統表を作成する。
- ②学年ごとに各領域の配当時間を確認する。そのうえで、いくつかの単元を設定できるかを考えて単元数を決める。

- ・「3領域」[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に示す指導事項は、相互に密接に関連づけて指導するように単元を作りましょう。

例 第5・6学年のA領域ア「話題設定と取材」と関連付けてC領域カ「目的に応じた読書」のように、スピーチの取材のために図書館等で資料を集める学習を関連づけて指導することなどが考えられます。

- ③指導事項にあわせて各単元の目標と評価規準を明確に設定する。

- ・マトリックス型の年間指導計画をエクセルで作成すると、全ての指導事項が網羅しているか、どの領域に何時間配当しているか確認できます。年間指導計画もその目的に応じてさまざまな型が考えられます。

- ④年間を見通して、学校行事や他教科の指導内容なども考慮して単元を並べる。

- ・他教科の指導内容や言語活動との関連もはかることも大切です。年間指導計画の項目に他教科との関連も書き込めるように工夫してみましょう

イ 次の項目備えた年間指導計画を作成しましょう。

- ・付きたい国語の能力（指導事項・言語活動の種類・特徴・学習過程の重点）
- ・単元の基本的な要素（単元名・教材名・実施時期・配当時間・主な学習活動）
- ・単元の評価のポイント（単元の評価規準・評価の方法など）
- ・関連性、系統性（国語科の他領域・各教科のかかわり・上下学年とのかかわり）

ウ 新学習指導要領による場合、配当時間に留意しましょう。

	第 1 学年	第 2 学年	第 3・4 学年	第 5・6 学年
全時間	3 0 6	3 1 5	2 4 5	1 7 5
A 話すこと・聞くこと	3 5	3 5	3 0	2 5
B 書くこと	1 0 0	1 0 0	8 5	5 5
C 読むこと	(1 7 1)	(1 8 0)	(1 0 0)	(6 5)
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項			毛筆 3 0	毛筆 3 0

（時間数については、新指導要領では「時間程度」と示しています）

- ・このように新指導要領は国語の配当時間が増加しました。
その理由は、「特に小学校の低・中学年において、漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表などにより、基本的な国語の力を定着させる。また、古典の暗唱により、言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要がある。」と中教審答申で説明しています。
- ・国語の基本的な国語の力を定着させるために、反復学習を位置づけましょう。

例 毎日 10 分程度の漢字の読み書き

毎日 10 分程度の音読や暗唱

毎日順番に 2 分以内の発表

毎日古典の暗唱（高学年）

エ 全ての指導事項が系統的に確実に配列されているかどうか、注意しましょう。

- ・指導事項は、生徒の発達段階を踏まえて、前後の学年で指導することもできます。例えば、導入となるような基本的な内容を前学年で行い、当該学年では活用も含めて時間をかけて学習するなど学習内容を繰り返すことは効果的です。弾力的に計画しましょう。

オ 年間指導計画の種類は特徴を踏まえて選択しましょう。

- ・三領域一事項全体にわたるもの
- ・領域ごとに作成するもの→該当領域の系統性を示す
- ・二学年のまとまりを見通せるもの→二年間で何を繰り返して学習させるかを明確にできる
- ・項目を絞り込み、一覧性を高めたもの→マトリックスなどの形式をとる

（３）新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発

【資料 4・資料 5】

ア 主単元には、必ず言語活動を位置づけましょう。

- ・学習指導要領に示された言語活動例を行いましょう。
各領域においては、基礎的基本的な知識技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、言語活動を具体的に示しています。指導事項を言語活動を行うことによって身に付けさせることが大切です。
- ・行うにあたっては次のように考えを進めましょう。
例 第3・4学年のC領域言語活動例ア 「物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」
は、「読むこと」の指導事項のオ「文章を読んで考えたことを発表し合い、感じ方に違いがあることに気付くこと」の指導に行うことができます。単元計画を立てるときには感想を述べ合う指導を中心に行うように計画することが大切です。次に、指導の系統も確認しましょう。この指導事項の系統は第1・2学年で「自分の思いや考えを発表すること」の指導があります。1・2年で身に付けたこの基本をもとに、3・4学年では「より豊かに相手を意識して詳しく感想を述べあえるような単元計画を工夫することが大切です。

イ 伝統的な言語文化の教材開発に工夫しましょう。

- ・全ての学年において古典を指導することになります。特に中学校との系統に留意し、中学校の古典教材と重ならない教材が望ましいでしょう。
- ・できれば中学校区の範囲で共通した教材で指導するとよいでしょう。
- ・第1・2学年では、昔話・神話・伝承などの読み聞かせ、児童同士で語り合ったりする楽しい活動を工夫しましょう。群馬県は地方に民話がたくさんあります。地域人材も活用できるでしょう。
- ・第3・4学年では、易しい文語調の文章、短歌、俳句の音読や暗唱を通して言葉のリズムに親しませましょう。また、ことわざ慣用句、故事成語もとりあげましょう。
- ・第5・6学年では、親しみやすい古文や漢文の文章の音読を行いましょう。
- ・古典の指導事項は2つになってもよいでしょう。例えば伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容と、他領域例えば読むことや話すことの指導事項を合わせて指導することもできます。大切なことは、子どもが古典に親しむように楽しい活動を工夫することです。教材研究のために、まず先生方が有名な古典に取り組んだり、校内研修で古典を専門に研究なさってる方を招聘して講話を聴くのもよいでしょう。

ウ 学校図書館を計画的に利用した単元を計画しましょう。

- ・「A話すこと、B書くこと」で、必要な情報を図書資料から得る指導を行いましょう。
- ・「C読むこと」で、教科書教材と関連した図書を読んだり、ブックトークを行ったり、学校図書館の図書を活用する学習を取り入れましょう。

【参考資料】

- 年間指導計画例【資料1・資料2・資料3】
- 単元計画の作成について【資料4】
- 単元計画の実例【資料5】

○年間指導計画について【資料 6・7】

水戸部修治文部科学省初等中等教育局教科調査官 『初等教育資料』平成21年5月号
東洋館出版

富山哲也文部科学省初等中等教育局教科調査官 『中等教育資料』平成21年6・7月号
ぎょうせい

(1) 三領域一事項を統合した年間指導計画例

中学校国語科 第1学年

月	領域と時数				単元名 身に付けさせたい言語能力	「教材」と指導事項	言語活動	評価（B 規準）	関連する 他領域	他教科との 関連	成果と課題
	A	B	C	伝							
4	3		4	伝	I 新しい世界へ ・ 詩に表れている見方をとらえ、自分のものの見方を広げる。 ・ 読む速さ・声の音量、言葉の調子の効果を理解して朗読する。 ・ 人物の心理描写に注意し、内容を理解する。 ・ 音声言語と文字言語の違いを理解し、音声の働きに関心を持つ。 ・ 漢字の字形を組み立てると部首から理解し、書体についても理解する。 ・ 話題を決めて、材料を集めて話したいことを整理する。 ・ 事実と意見の関係を考えて構成する。 ・ 速度、音量、調子の効果に記を配る。 ・ 自分の経験との共通点と相違点を聞き取り、整理する。	「野原はうたう」 B オ 「声を届ける」 A ウ 「にじの見える橋」 A ア・ウ 「話し言葉と書き言葉」 伝イ(7) 「漢字の組み立てと部首」 伝ウ(1) 「発見したことを伝えよう」A ア・イ・ウ・エ	音読 朗読	○ 詩の言葉の特徴や意味を理解し、感じたことを声にすることができる。 ○ 人物の気持ちの変化を声にすることができる。 話○ 評価シートの項目で、相手がわかるかと自分の目的が伝わったかの観点に▲つ以上「A」がある。 聞○ 自分の共通点と相違点を▲つ以上挙げている。	伝(1)イ	音楽 歌唱 全教科 社会 社会 理科 技術	
5			4								
5			2								
5			1								
6			6								
6	6		3	伝	II 視野を広げる ・ 文章におけるそれぞれの段落の働きを考える。 ・ 文章を読んで、自分の物の見方を広げる。 ・ 文章の中心と部分を読み分けて、必要に応じて要約する。 ・ 目的に応じて必要な情報を集める方法を身に付ける。 ・ 文節、単語等について理解する。 ・ 同音異字の漢字を理解する。 ・ わかりやすく書くために必要な情報を得る方法を身に付けている。 ・ 書いた文章を読み直し、分かりやすい文章に改めることができる。	「ちょっと立ち止まって」 C エ・オ 「クジラたちの声」 C イ・カ 「文法の広場①言葉の単位」伝(1)ウ(7) 「漢字 混同しやすい漢字」伝ウ(1) 「分かりやすく説明しよう」B ア・イ・エ	新聞	○ ▲つの段落について、働きを具体的な言葉で説明できる。 ○ 最後のまとめで、自分の考え方を振り返る表現▲箇所ある。 ○ ▲文字以内で、要約できる。 ○ 新聞に必要な情報を▲つ以上集めている。 ○ 客観テストで、▲点以上である。 ○ テストの文章について 点以上である。 ○ 評価シートの項目で、相手がわかるかと自分の目的が伝わったかの観点に▲つ以上「A」がある。	A オ B 全体	全教科 考えと根拠 社会 理科 社会 数学 理科 技術・家庭	
6			4								
6			2								
6			1								
6			6								
10			2	3	IV 古典との出会い ・ 古典にはいろいろな種類の文章があることを知っている。 ・ 歴史的仮名遣いで古典を読み、古典の世界に触れる。 ・ 文章を読み必要な情報を集める。 ・ 漢文の訓読を理解している。	「いろは歌」 伝(1)ア(1) 「蓬萊の玉の枝」竹取物語 伝(1)ア(ア) 今に生きる言葉 C カ 伝(1)ア(7)	音読 朗読	○ 学習後のクイズに全問正解している。また、クイズを▲つ作問できる。 ○ 歴史的仮名遣い等を正しく読むことができる。 ○ レ点と一二点の訓読文を▲文読むことができる。	C ウ・オ	社会 音楽	
10			5								
10			1								
計	20	25	30	10	8 5 時間						

(新教育課程実施領域) 領域を取り上げた年間指導計画

小学校国語科 第2学年 A書くこと

【資料2】

月	総時数	教材名	身に付けさせたい言語能力	主な学習活動	指導事項					関連する他領域の 時数	他教科との 関連	成果と課題 (指導終了後に記入)
					ア 課題設定 や取材	イ 構成	ウ 記述	エ 推敲	オ 交流			
4	4	今週のニュース	・友達に伝えたいニュースの材料を集める。	○ニュースの材料を集め、学級の友達に今週のニュースを知らせる目的で書く。	◎					Aで4 (伝1)	生活科	
5	16	たんぼぼのちえ	・順序に沿って簡単な構成を考える。	○時間の順序や理由付けの言葉に着目してたんぼぼについて書く。	◎	○				Cで12	生活科 算数	
6	2	かん字のひろば①	・絵を見て想像したことから書くことを決めて書こうとする材料を集める。	○たぬきの絵の漢字を使って想像したことを書く。	◎							
7	12	かんざつ名人になろう	・経験したことから書くことを決め、材料を集める。 ・事柄の順序に沿って簡単な構成で書く。 ・友達と文章を読み合い、良いところをみつけて感想を伝え合う。	○身の回りから不思議だと思うことを見つけて何を書くかを決める。 ○観察した順序で書く。 ○書いた文章を読み合い、感想を交流する。		◎			○	Cで10	生活科	
	14	スイミー	・友達がわかるように構成を考えて書く。	○好きな本について友達に紹介する。	◎	○						
	2	かん字のひろば②	・絵を見て想像したことから書くことを決めて材料を集める。	○犬と散歩する絵の漢字を使い、想像したことを書く。	◎							
	10	もうすぐ夏休み	・書くのに必要な材料を集める。 ・順序を考えて構成を決め、言葉の続き方に注意して書く。 ・文章を読み直して、間違えたところを書き直す。	○夏休みにしてみたいことを書く。	◎	◎	◎	◎				
計	100	20教材			◎10 ○5	◎8 ○8	◎7 ○9			A35 C121 伝50	生活科 音楽科	●事項算数科 ●事項図画工作科

(3) マトリックス型教材配列表 例

小学校国語科 B書くこと

【資料3】

		第1学年及び第2学年							計	第3学年及び第4学年				計	第5学年及び第6学年						計
	教材名	どうぞよろしく	たんけんしたよみつけたよ	かきとかぎ	今週のニュース	たんぼのちえ	かん字のひろば		つづけてみよう	きつきの商売	言葉の遊びの世界	ごんぎつね		新しい友達	敬語	今、わたしは、ぼくは	わたしたちの言葉	海の命			
	指導事項																				
第1学年及び第2学年	ア課題設定や取材	5	2			1	1	40													
	イ構成		1		1	1		40													
	ウ記述			1	1	2	1	40													
	エ推敲							40													
	オ交流							40													
第3学年及び第4学年	ア課題設定や取材								1	2	2	2	34								
	イ構成										2		34								
	ウ記述										2	3	34								
	エ推敲									4	2	2	34								
	オ交流											1	34								
第5学年及び第6学年	ア課題設定や取材													2			1	1	22		
	イ構成														1	2	1	1	22		
	ウ記述															2	2	1	22		
	エ推敲															1	2		22		
	オ交流															1	1	1	22		

単 元 計 画 の 作 成 に つ い て

【資料 4】

単元名「こころのつながりをよもう」

		国語科 1年		指導時期		2月	
		身に付けさせたい言語能力		言語活動		評 価 規 準（おおむね満足できる状況）	
		場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読む能力（Cーウ） アクセントによる言葉の意味の違いに気付く能力（「伝国」イー（ア））		がまくんの毎日の様子を想像して、「がまくんの日記」を書く		○関意態：がまくんの気持ちを想像して毎日の日記を 5行以上書いている 。	
		【関連指導事項】 書いたものを読み直し間違いに気付く能力（Bーエ） 友達の文章を読み、良いところを見つける能力（Bーオ）		学習指導要領の指導事項から、指導のねらいをしぼりましょう。		○読むこと：がまくんの様子と気持ちを示す表現が毎日の日記の中に 6つ以上ある 。	
		関連する指導事項も書き込みましょう。		中心となる言語活動を示すことがポイントです。		○伝国：アクセントによる意味の違いを説明できる。	
						評価の規準を数値化することで、何をどこまで指導するかが明確になります。	
指導の系統 「文学的文章の解釈」	1年・2年	3年・4年		5年・6年		特に工夫する表現の場	
	「場面の様子と登場人物の行動を想像を広げながら読む」 ここに、指導に使う教材を並べて書き込みましょう。	「場面の移り変わり、人物の性格と気持ちの変化、情景描写について想像する」 教材を配列する		「登場人物の相互関係や心情、場面の描写をとらえる」「優れた叙述について考えをまとめる」 教材を配列する		例 ・第2次で、授業の導入で役割読みをする。 ・第3次で、書いた日記を交流させて感想を交換する。 ここは、学校の「指導の重点」や校内研修にかかわる内容を書く欄です。	
		学習内容（ねらい）		学習活動		支援及び指導上の留意点	
お 手 紙	第1次	○全文を読んで、登場人物・時・場所についてだいたい理解する。		学習活動の順番を示し、授業の大きな流れを書きましょう。			
		○難しい言葉や表現について理解し、お話の筋をつかむ。				評価規準にあわせて、評価の観点を決めましょう。この観点も、全単元の中で重要な授業での観点は数値化示すことが大切です。	
	第2次	学 習 課 題「が ま く ん の に っ き を か こ う」					
		○日記の書き方を知る。 ○がまくんの前日の気持ちを想像する。		日記を書く		『ふたりはともだち』から「ぼたん」「すいえい」の話を読み聞かせて、このお話の始めのがまくんの気持ちとかえるくんの気持ちを想像させる。	
		○1の場面を読み、がまくんの気持ちとかえるくんの気持ちを二人の行動から想像する。				ここには、その授業で「中心となる発問」発問に対して「予想される児童の反応」と「具体的な手立て」を書き込みましょう。どれだけその授業の内容と児童の姿を想像できるかがポイントです。	
		○2の場面を読み、がまくんの気持ちと変えるくんの気持ちを二人の行動から想像する。					
		○3の場面を読み、がまくんの気持ちと変えるくんの気持ちを二人の行動から想像する。					
		○4の場面を読みがまくんの気持ちと変えるくんの気持ちを二人の行動から想像する。					
		○5の場面を読みがまくんの気持ちとかえるくんの気持ちを二人の行動から想像する。					
		○二人で手紙を待っている4日間について、想像する。		日記を書く （日記を書く）			
		○手紙が来た目のがまくんの日記を書く。		日記を書く			
	第3次	○今までの授業で書き貯めた「がまくんの日記」を読み返して、間違いなどを直してとじる。 ○友達と書いたものを読み合い、お互いによい所の感想を伝える。		赤字は、関連指導事項です。新指導要領は、指導事項を組み合わせる繰り返して指導することがポ			
		○二人はともだちシリーズの他のお話を読む。				ここは形成的な評価です。児童の書いたものを評価し今後の、指導の修正をはかるために大変重要な評価になります。	

単 元 計 画 の 実 例

【資料 5】

国語科 3 年		指導時期		9 月		
身に付けさせたい言語能力		言語活動		評価規準		
○歴史的背景などに注意して古典を理解する能力。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア）		3 つの文章から一つを選び、情景を映した DVD に合わせて朗読する。		[関意態] 朗読原稿に書き込みが着実に増えている。		
【関連事項】 ○語句の効果的な使い方に注意して朗読できる能力 （読むこと ア）				[読むこと] 芭蕉の思いを理解して朗読原稿に書き込み、その理由を述べることができる。生徒の感想に、芭蕉の旅や考え方に対する自分の考えを表す表現が○文以上ある。		
○文章を読んで、芭蕉の生き方について考え自分の意見を持つ能力 （読むこと エ）				[伝統的な言語文化に関する事項] 芭蕉の思いを考えて朗読原稿を書き込み、その理由を詳しく述べることができる。		
指導事項の系統と教材	1 年 古典の世界にふれる ○文語のきまりや訓読の仕方を知る。 ○古文や漢文を音読する。 ○古典の世界にふれる。 ○古典には様々な種類の作品があることを知る。		2 年 古典の世界を楽しむ ○作品の特色を生かして朗読する。 ○古典に表れたものの見方や考え方に触れる。 ○登場人物や作者の思いなどを想像する。		3 年 古典の世界に親しむ ○歴史的背景に注意して古典を読む。 ○古典の一部を引用して文章を書く。	指導の重点
	『民衆の中から』（ことわざ 笑い話） 『故事成語』（矛盾） 『竹取物語』（冒頭 かぐや姫の昇天）		『平家物語』（祇園精舎 扇の的 敦盛の最期） 『枕草子』（春はあけぼの 月のいとあかきに） 『徒然草』（堀池の僧正）		『おくのほそ道』（旅立ち 平泉 立石寺） 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 『漢詩』（黄鶴楼にて孟浩然の広陵に行くを送る 春望）	それぞれの考えを友達に伝え合う。 ○具体的な場面 ・グループでクイズの答えを考える ・朗読原稿を作成するときに友達と意見を交流する。
	時間	ね ら い	学 習 活 動	支援及び指導上の留意点		評価項目
	第 1 次 （5 時間）	江戸時代の旅や松尾芭蕉について知り、今後の学習に対する意欲を高める。	1 本時の活動を知る。 2 江戸時代の旅や松尾芭蕉について班対抗 3 教科書 p16,17 を読む。 4 好きな俳句を一つ選び、音読する。 5 感想を書く。	・これからの学習意欲を高める。 ・この時代の旅や松尾芭蕉について、自分の考えを友達に伝え合う。 ・俳句の読みかたや、松尾芭蕉の生い立ちや、松尾芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。		江戸時代の旅の様子や松尾芭蕉について進んで知ろうとしている。（観察）
		「旅立ち」を読み、芭蕉の旅へあこがれる気持ちをもつ。	1 「旅立ち」を音読する。 2 芭蕉が旅立ちの音読する。 3 芭蕉が旅立ちの音読する。 4 芭蕉が旅立ちの音読する。 5 芭蕉が旅立ちの音読する。	・歴史的背景に注意して古典を読む。 ・芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。 ・芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。		「旅立ち」を正確に音読し、芭蕉の旅へあこがれる気持ちをもっている。（観察）
「平泉」を音読し、繁栄した奥州藤原氏が衰退する。（2 時間扱い）		1 「平泉」を音読する。 2 「平泉」を音読する。 3 「平泉」を音読する。 4 秀衡、泰衡、義経、義臣についてまとめる。 5 もう一度音読する。自分が読んでいて調子が良いと感じたところを引く。	・前時の復習として、「平泉」を音読する。 ・歴史的背景に注意して古典を読む。 ・芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。		「平泉」秀衡、泰衡、義経、義臣について自分の言葉でまとめている。（観察・ワークシート）	
「おくのほそ道」		「平泉」を音読し、繁栄した奥州藤原氏を思い出す。（2 時間扱い）	1 「平泉」を音読する。 2 誰が夢をみたのか。 3 「んもくわ」 4 夢をみた理由。 5 夢をみた場所。	・前時の復習として、「平泉」を音読する。 ・歴史的背景に注意して古典を読む。 ・芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。		「夢」と「跡」が表すことについて、自分の考えを発表している。（観察）
	「立石寺」を音読し、立石寺の景色の美しさを想像する。	1 「立石寺」を音読する。 2 立石寺を訪ねた季節や、立石寺の景色の美しさを想像する。 3 立石寺を訪ねた季節や、立石寺の景色の美しさを想像する。 4 もう一度音読する。自分が読んでいて調子が良いと感じたところを引く。	・前時の復習として、「平泉」を音読する。 ・歴史的背景に注意して古典を読む。 ・芭蕉の旅について、自分の考えを友達に伝え合う。		「立石寺」を正確に音読し、立石寺の景色の美しさを想像し、発表している。（観察・ワークシート）	

新教育課程実施・編成に向けての参考資料

	第2次 (2時間)	理解したことをふまえ、朗読の原稿を作る。	1 朗読の練習をする。 2 朗読の練習をする。 3 朗読の練習をする。 4 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	・D V Dを借りて読む。 ・芭蕉の詩を朗読する。 ・第1回朗読会に参加する。 ・机と書架の整理をする。 ・生徒の意見を聞き、指導する。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	表現の意図をもち、自分なりの考えを、表現の仕方を通して、原稿を書いている。(観察・ワークシート)
		理解したことをもとに話の仕方を工夫する。	1 読むスピードを上げる。 2 グループで読む。 3 読んだ内容を発表する。 4 読んだ内容を発表する。 5 各自で読む練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	一人あたりの持ち時間を設定し、守るようにする。 ・机間巡視を行い、生徒の朗読を聞く。 ・たくさん意見を言うようにする。 ・どのようになっているかを考える。 ・D V Dに合わせて読む。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	朗読をよりよくするために自分の考えを発表している。(観察・ワークシート)
	第3次 (1時間)	朗読の発表をし、文章をより深く味わう。	1 朗読の練習をする。 2 D V Dに合わせて朗読を発表する。 3 感想を書く。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	・前時を振り返れるようにする。 ・聞いている人は、朗読が終わったら感想を書く。 ・一人一人の生徒の朗読を聞く。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。 朗読の練習をする。	自分なりの理解をもち、原稿を生かして朗読している。(朗読)

初等教育資料（平成21年5月号）

水戸部修治文部科学省初等中等教育局教科調査官

「国語科における魅力ある教育計画の立案」から引用

【資料6】

（1）活用しやすい年間指導計画の作成

①当該学年の指導内容の把握

②単元配列と育成すべき能力の明確化

③国語の能力の調和的な育成

④年間指導計画の種類と特徴を踏まえた選択

国語科の年間指導計画には、例えば次のように活用の際の重点の置き方によって幾つかの種類が考えられる。それぞれの特徴を踏まえた上で、国語科の授業改善に生かすという観点から、各学校において適切に選択する必要がある。

○三領域一事項に全体にわたるもの

単元の配列順に、どのようなねらいでどのような教材を取り上げ、どう指導するかを示したもの。三領域一事項全体を網羅し、それぞれの単元でどのように指導するか、また各領域等をどのように能力的に関連させて指導するかが把握しやすい。

○領域ごとに作成したもの

領域ごとに年間の指導計画を記載したもの。当該領域の単元間の関連性・系統性が見通しやすい。

○二学年のまとまりを見通せるもの

二学年のまとまりで作成するもの。二学年でどのように繰り返しをしたり発展したりするかが見通しやすい。

○項目を絞り込み、一覧性を高めたもの

横軸が単元・教材名、縦軸が指導事項のマトリックスなどの形式をとる。年間を見通して、どの単元・教材でどの指導事項を指導するのかが一覧できるため、特定の指導事項を前までのどの単元で取り上げたか、それ以降のどの単元で繰り返し指導するのかといった系統性が見通しやすい。また、年間を見通して指導する指導事項に過度な重複や欠落がないかを確認しやすい。作成が比較的容易であるため、年度途中に軌道修正を図る際にも変更しやすい。

⑤年間指導計画が備えるべき要件

年間指導計画に位置付ける項目として例えば次のようなものが考えられる。

- ・付けたい国語の能力（取り上げる指導事項、言語活動の種類・特徴、学習過程のどこを重点化するかなど）
- ・単元の基本的な要素（単元名、教材名、実施時期、配当時数、主な学習活動など）

- ・単元の評価のポイント（単元の評価規準、主な評価方法など）
- ・関連性、系統性（国語科の他領域・各教科とのかかわり・上下の学年とのかかわりなど）

これらの項目については、情報量が多ければ、授業に具体化する際の手がかりを多く示すことができる反面、余りに詳細に過ぎると、全体の系統性や終点とすることが見通しにくくすることも考えられる。一つの指導計画にすべてを盛り込むのではなく、年間指導計画をどのように活用するのかを具体的に描きながら、必要な項目を選定してその形式を確定することが大切である。

なお、年間指導計画の活用にあたっては、例えば、授業研究会の事後の研究協議においても、学習指導案と併せて、年間指導計画を参照しながら授業改善の手がかりを見いだしていくといったことも有効である。

中等教育資料（平成22年7月号）

【資料7】

富山哲也文部科学省初等中等教育局教科調査官

「中学校国語の指導の改善（10）」新学習指導要領による授業の構想から引用

年間指導計画作成上の留意点

（一）学習過程の意識と指導の重点化

（略）年間指導計画表の横軸に単元名等を設定すると、その単元でどのような言語活動を行い、それを通してどの指導事項を指導するかを考えることになる。その際、各領域の指導事項は学習過程に即して構成しているので、単元における学習活動の流れをイメージすることもできるだろう。

表では、この中でウの指導事項に「◎」を付した。これは特にこの単元においては、ウについて重点的に指導し評価するということを示している。四時間という設定の中で、すべての生徒について評価し記録に残すためには、ただ、記録に残す評価はしなくても、意図的に指導することは考えられるので、そのことを「○」で区別するようにしたのである。（略）

（二）年間を通じたバランスのとれた指導

（一）で述べたように、指導の重点化を図るとともに、一年間を総合的に見ると、すべての事項を漏れなく、バランスよく指導するようになる必要がある。特定の指導事項に偏りがある場合には、計画全体を見直さなくてはならない。

また、指導時数の目安を示している内容についても注意するようにする。改めて確認すると、

○話すこと・聞くことの指導時数

○書くことの指導時数

○書写の指導時数

については、学年ごとに目安を示している。年間の指導時数を合計し、目安を満たして

いなければ調整するようにする。

(三)〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の位置付け

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のア「伝統的な言語文化に関する事項」「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」「ウ漢字に関する事項」については、基本的に三領域の指導を通して指導することになっている。個々の単元において、関連する事項を計画的に位置付けていくことが必要である。

また、一方、その事項だけを取り上げて指導することも可能である。例えば表では「古典のリズムを味わう」という単元では、「伝統的な言語文化に関する事項」のみに「◎」と「○」を付した。これは三領域との関連を特に図らず、古典に関する指導内容のみに基づいて単元を構想したことを表している。

書写の指導については、ある時期に集中して指導する考え方と、年間を通じて平均的に時間を割り振って指導する考え方がある。新学習指導要領においては、三領域や〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の他の内容の指導との一層の関連を重視しており、それを踏まえた年間指導計画の作成が求められる。

(四) 既習内容や他領域の学習内容との関連

このような年間指導計画表を作成することにより、特に次のような点を分析的に考えることができる。

①既習内容を踏まえた単元構想

表を横に見ていけば、同じ指導事項の指導が、年間を通して繰り返し位置付けられることがわかるだろう。これにより、二度目三度目の指導に当たっては、既習内容を踏まえた意図的な指導を考えることができる。もちろん、三学年分の表が完成すれば、下学年における指導を踏まえた単元の構想も明確になる。

②領域間の関連を踏まえた単元構想

新学習指導要領では、これまで以上に、領域間の関連を図るようにしている。例えば、第一学年の言語活動例では「書くこと」で「図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと」「読むこと」で「文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」を示している。また、第二学年では、抽象的な概念を表す語句に関する指導について、「読むこと」と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の両方で示している。

年間の指導内容を一覧表化することにより、このような領域間（あるいは、領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）との関連がとらえやすくなり、意図的・計画的な指導が一層進めやすくなるのである。そして同時に、その単元でどのような力を付けたいのかということも明確になるのである。

【資料 7 に附属】 年間指導計画例

平成21年度 国語科年間指導計画表
新教育課程実施・編成に向けての参考資料

課程実施・編成に向けての参考資料				4月				5月										
				No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
第1学年	単元名（教材・題材）				出身小学校の紹介をしよう	春の詩を味わう	漢字と仮名の調和	小学校で学習した漢字を調べる	古典のリズムを味わう	...								
	指導時数				4	3	2	5	3									
A 話すこと・聞くこと	指導事項	話題設定や取材	ア	日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	○													
		話すこと	イ	全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。														
			ウ	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	◎													
			聞くこと	エ	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	○												
		話し合うこと	オ	話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。														
	言語活動例	ア	日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	●														
		イ	日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。															
		(上記以外の言語活動)																
	B 書くこと	指導事項	課題設定や取材	ア	日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。				○									
			構成	イ	集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。				◎									
記述			ウ	伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。														
C 読むこと	自分の考えの形成		エ	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。														
			オ	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。		◎												
	読書と情報活用		カ	本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。														
			言語活動例	ア	様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。	●												
	イ	文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。																
	ウ	課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。																
	(上記以外の言語活動)																	
	(1) 伝統的な言語文化に関する事項	(ア)	(イ)	文語のきまりや調読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。					◎									
(イ)			古典には様々な種類の作品があることを知ること。					○										
関する事項	(2) (書写)		(イ)	学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。														
			ア	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷（かい）書で書くこと。				◎										
			イ	漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。														